

特集

株式会社サスカッチ 小川貴央さん（左）

北ぶらくり丁商店街振興組合理事長 桑島英樹さん（中央）

北ぶらくり丁商店街振興組合副理事長 平松博さん（右）

北ぶらくり丁 × 未来

懐かしい雰囲気を残す”北ぶらくり丁商店街”が再注目されています。

道路空間を上手く活用しながら日常生活を作り出す。

にぎわいが戻りつつある商店街をさらに盛り上げていくために

商店街の未来の姿を表現する社会実験を行います。

10/3(火)～15(日)

実施期間中にはイベントも開かれます。

ぜひ、これからの北ぶらくり丁を体感してみては？

問 株式会社サスカッチ ☎ 050-3754-4360

都市再生課 ☎ 435-1048

北ぶらくり丁商店街のあれやこれやについて、同商店街振興組合の理事長 桑島英樹さん、副理事長 平松博さん、社会実験を手掛ける株式会社サスカッチ 小川貴央さんにお聞きしました。

北ぶらの歴史を辿る

平松さん「昭和20年の大空襲で大部分の建物が焼失しました。何もない状態から復興が進み、「北ぶらくり丁は2階建て」と呼ばれるような、1階が商店で2階が住居といった造りの建物が並びました。1970年代にかけて、日本の経済成長とともに、商業の中心地として栄え、多くの人でにぎわう商店街でした。しかし、1980年代になると、大型スーパーや大学、病院等が郊外へ移転し、日本経済のバブル崩壊とともに大型店もなくなり、商店街にはシャッターが閉まった店が増えていきました。そして、2000年頃からネットショッピングが流行り始め、インターネットで購入する人も増え、商店街はさらに厳しい状況になりました。「ネットがあれば、店はいらない」そんなことも言われますが、路面店の役割を見つめ直し、そうでもないのでは？と考えるようになり、お店の人と話したり、楽しみの部分を提供できる。そんな身近な場所として、これから進んでいけたらと考えています。

魅力を探る

平松さん「昭和の香りが残っていることです。建物や看板等、随所にレトロな雰囲気が残っています。最近では、若い人たちも集まるようになりました。北ぶらにきたことがない方は、新鮮なものを見るようだけれど、どこか懐かしさもある、そういうところがおしゃれだと反応しているのかもしれない。」

桑島さん「サーキュレーター」の音が聞こえるくらい静かだった商店街に人の声

”若い世代が魅力に感じる物が残っている”

が戻ってきていて嬉しく思います。挑戦を止めずに取り組んできた結果が今につながっているのだと思います。平松さん「古いものにすがわるわけではないですが、新しく作り変えるのではなく、古いものを活かす価値のあるものとしていきたいです。」

社会実験の目的は？

小川さん「北ぶらくり丁の未来」を表現します。アーケードのトタン屋根を一部透明化して、日のある場所を作ります。

日の光で明るくすることによって、もしアーケードがなかったらどのような陽当たりで明るくなるのかを考えます。また、歩きたくなるような居心地の良い商店街にするために、どのようなデザインに可能性があるか社会実験を通じて考えていきます。実験は10月3日～15日まで、3日には、商店街の道路に机を並べ朝ごはんを食べる「はじめ食堂」、7日・8日に空き店舗を利用した「映画祭」、8日には秋のパン祭りテーマにした「北ぶらリメンバー MARKET」、14日・15日に空き店舗等を利

用しポップアップショップを出店する「まちドリ」を開催します。もともととて未

来の姿を表現したいと思っています。平松さん「商店街は、住民の皆さんにとって、あつてよかった、楽しいと思ってもらえる場所であることが大切です。写真館や映画館もできる予定です。小川さんも含め、いろんなカルチャーを持っていく方が集まってきているので、限界なくどんな方向でも進んでいける商店街になっていきます。ぜひ、多くの人に商店街へ来ていただいで、みんなでこれからの姿を作っていけたらいいと思います。」

北ぶらの社会実験 ~KITABURA STREET PARK PROJECT~

北ぶらくり丁商店街のアーケード撤去後の商店街の居心地を高め、活用度を高めていくために、社会実験を行うことで、どのようなデザインに可能性があるかを導き出すことを目的としています。

10月3日(火)	7時～	北ぶらはじめ食堂
10月7日(土)・8日(日)		Kisssh-Kisssssh(きしゅ〜きしゅ〜) 映画祭
10月8日(日)	11時～	北ぶらリメンバー MARKET
10月14日(土)・15日(日)		まちなかイロドリ
10月14日(土)	夜	北ぶらストリートパークビアガーデン